



TITLE:

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 74

AUTHOR(S):

---

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 74. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1958, 74: 43-48

ISSUE DATE:

1958-11-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186792>

RIGHT:

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興會

## 水族館月報

No. 74

1958.10月(11月5日)

### 録 事

引きつづく台風のもたらす大雨により、水族館横の丘上に設置してある海水貯水槽の北側斜面の土砂が、10月23日未明、遂に崩壊した。貯水槽壁のひび割れからの長年の漏水と降雨による地盤のゆるみから、岩盤の上を薄く被覆しているに過ぎない土砂が次第に下方に向ってずれてきた上に、斜面に生えている松樹の風水害による倒潰が土を持ち上げて、土砂の落下を倍加したものであろう。夜間照明用の垂灯も倒れた。これが復旧にも時日を要することだろうが、貯水槽は実験所の研究設備並に水族館の生命とするところであるので、その機能をおびやかす施設の強化が一段と望まれる。

水族館は観光シーズンに入ってから連日盛況をきわめ、19日も3000人を超える入館者を見た。

しかしその反面、団体の酔客が多く、遂に正午過ぎウミガメの仔を飼育してあるNO.5の水槽のガラスがたたき破られてしまった。幸に怪我人はでなかったが物的損害以上観客の心ない悪戯に冷汗を覚える。

市港委員は海水取入口工事及びポンプ室の新設の件で京都大学へ10月6日出向した。

内海委員は動物学会第29回大会に出席のため10月22日～30日の間四国松山・高知方面に出向し、各地の水族館を見学した。

原田研究員は中海の淡水化計画に伴う依託調査のため10月6日～16日島根県に出向した。

## 業 務 概 況

### ◎ 10月の入場者数

区 分	水族館発売数		明光バス発売数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大 人	7707	49908	19048	107503	26755	157411
小 人	149	5072	134	4132	283	9204
団 体	24537	100304	—	—	24537	100304
合 計	32393	155284	19182	111635	51575	266919
無料入場者	綱不知老人連				40	515

団 体 : 一般 201組, 学生 40組, 計 241組

### ◎ 10月の事業収入

(今年度累計)

観覧券売上金	880,690	4,775,739
予金積立金利息	—	279,056
雑 収 入	—	24,410
魚 糞 拂 下	—	8,940
絵はがき拂 下	16,160	80,710
計	896,850	5,168,855

### ◎ 10月の支出

#### 水族館経費

費 団	金 額	累 計	備 考
人 件 費	75,860	603,519	事務連絡京都行旅費
会 議 費	1,290	63,247	(布施委員)他
備 品 費	—	86,520	
消 耗 費	6,613	108,530	
事 業 費	61,189	459,473	
維 持 費	24,275	96,827	アクアラング修理部分品他
其 他 諸 費	7,100	333,429	
積 立 金	179,279	486,438	
合 計	355,606	661,593	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研 究 費	20,000	80,000	内海委員
奨 学 金	8,000	56,000	
備 品 費	—	344,225	
消 耗 費	—	—	
刊 行 費	—	217,534	
役 務 費	—	—	
合 計	28,000	697,759	

博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	26,845	169,130	原田研究員旅費他
備 品 費	—	51,020	
消 耗 費	—	5,515	
役 務 費	—	8,030	
合 計	26,845	233,695	

臨時費

支 出 な し

支出合計

(今年度累計)

水産館経費	355,606	6,615,933
実験所経費	28,000	697,759
博物館経費	26,845	233,695
臨時費	—	562,560
計	410,451	8,109,947

◎ 10月末現在高

前月からの繰越	460,339
今月の収入合計	896,850
今月の支出合計	410,451
現 任 高	946,738

◎ 前年度との比較

	1957	1958	増	減
入 場 者 数	47813	51575	+	3762
売 上 金	859,756	880,690	+	20,934
支 出 金	439,242	410,451	-	28,791

水 族 館 記 事

- ◎ 夏の熱帯魚の景物ツノダシの美しい姿が、おそまきながら8日水槽を飾った。餌つきよく、現在大変元気である。
- ◎ 季節のイカつけも盛期に入り、水族館にもアオリイカを連日のように入れることができたが、生きはよくない。
- ◎ ミノカサゴ、ハナミノカサゴが12日入槽。白斑病に眼を犯されているが現在まだ元気である。白斑病といえはフグの類は一般に弱くアカメフグもすぐに犯されて死んでしまった。
- ◎ 瀬戸雑習崎の漁師の一本釣で獲れたイトヒキアジ、コバンザメ、ツバクロエイが数回入槽したが、生きが悪く、いずれも10日を待たず死んでしまった。
- ◎ 4日クマノミが1匹入槽したが、翌5日死亡。
- ◎ 5日タマガシラが1匹入槽したが、10日に死亡。
- ◎ 12日サヌキベラ1匹入槽。17日死亡。
- ◎ シャゴ1匹 11日、ツルグエ2匹 12日入槽。
- ◎ アカウミガメの仔3日、28日各1匹死亡。

資 料

- ◎ 10月の気象 (9時観測)  
 南水槽室 (水温比重はN0.25水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
I 晴天日数(8)	3	1	4
室 温(°C)	$\frac{18.5 \sim 23.3}{20.2}$	$\frac{18.6 \sim 25.9}{21.7}$	$\frac{14.6 \sim 21.5}{18.4}$
水 温(°C)	$\frac{22.70 \sim 24.30}{22.85}$	$\frac{21.83 \sim 24.06}{22.89}$	$\frac{19.89 \sim 22.20}{21.44}$
比 重(0.15)	$\frac{24.25 \sim 25.24}{24.79}$	$\frac{24.25 \sim 25.28}{24.87}$	$\frac{23.64 \sim 25.32}{24.65}$

取入口

水 温(°C)	$\frac{22.70 \sim 24.08}{23.45}$	$\frac{24.71 \sim 25.08}{24.95}$	$\frac{19.90 \sim 23.00}{22.03}$
比 重(0.15)	$\frac{22.28 \sim 24.90}{23.17}$	$\frac{24.47 \sim 25.43}{25.09}$	$\frac{24.25 \sim 25.55}{25.11}$

- ◎ 1957年10月より1958年10月に至る1年間の各月平均海水比重・水温

年	月	室温 °C	南水槽室N0.25水槽		海水取入口附近	
			温度 °C	比重 0.15	温度 °C	比重 0.15
1957	10	20.7	22.32	24.94	22.89	24.90
	11	17.2	20.05	25.27	20.36	25.33
	12	12.7	18.94	25.36	18.04	25.48
1958	1	10.1	15.12	25.56	15.26	25.70
	2	11.2	14.34	25.55	15.00	25.73
	3	12.9	15.64	25.52	16.03	25.58
	4	17.3	17.43	25.11	17.77	25.00
	5	20.1	19.42	25.22	19.73	25.40
	6	24.2	23.48	25.29	23.87	25.72
	7	25.7	26.37	25.23	26.79	25.40
	8	28.5	27.88	24.81	27.42	25.00
	9	26.4	26.49	24.29	26.95	24.87
	10	20.1	22.36	24.76	22.86	25.05

# 来 訪 録

10月6日～10日 須磨水族館奥野良之助氏（アクアラング）によるタイドプールの小魚の採集）

10月28日～11月1日 京大大学院学生児玉浩憲氏（ナイロンテカスの試験のための潜水観察）

昭和33年11月5日

(NO. 74)

編集兼  
発行者

内 海 富 士 夫

発行所

瀬戸内海実験所  
和可山白浜町  
瀬戸内海実験所  
(Tel. 白浜温泉 515)